

県立大生と一緒にダダダコの輪も

加茂青砂地区で「加茂ライブ」



▲学生たちは、丁寧な指導を受け、漁師のロップ結びを体験しました。



▲交流会では、地区の皆さんと学生と一緒に作った料理を囲んで大いに盛り上がりました。



▲学生たちは、男鹿の料理の手ほどきを受け、一生懸命に作りました。

秋田県立大学の学生と加茂青砂地区住民との交流会「加茂ライブ2008」が、8月9日から10日にかけて同地区を会場に開かれました。

これは、同大の「遊びを通して学生の人間力を高める」ことを狙いとした教育プログラム「薫風満天フィールド交流塾」の一環で、学生と教職員約50人が加茂青砂を訪れました。初日は、地元の新鮮な魚貝類をふんだんに使った郷土料理を地区の女性たちが学生たちに伝授。その料理に舌鼓をうちながらの交流会には、地区の男性たちも多数参加して、リゾートホテル「きららか」のキャンプ場は、互いに交流を楽しむ80人の笑い声で盛り上がりました。

2日目は、旧加茂青砂小体育館で地元の方々の指導を受けながら、漁師のロップ結びやアケビツル細工に挑戦しました。この後、和太鼓やアフリカの太鼓などのライブも楽しみ、最後はみんなで盆踊り。会場に響くダダダコにあわせ、学生と地区住民は一緒に輪をつくって踊り、楽しいひと時を過ごしました。

「来年もまた来るって」学生たちからの再会を約束する言葉に、この交流会の充実ぶりが伺えます。男鹿の「食・自然・人情」に触れた学生たちは、多くのことを男鹿から学んだようでした。